

活動報告



2015年度は、プカロンガン市では、バンドウンガン村の植林を支援し、特に苗づくりの技術向上に力を入れました。また、マングローブを植林する魚の養殖場では、住民の収入向上の一環として海藻養殖の導入を支援しました。将来の保全活動の人材育成としては、地元の高校生30人がマングローブの生態系機能を学び、植林を体験する体験学習を実施しました。

一方、スマラン市タパック村では、女性も子どもも参加する村全体のマングローブ保全の実現に向け、女性グループの活動や子供への環境教育に力を入れました。女

性グループはマングローブエコツアーのお土産用に、スナック等お菓子の開発や研修を行いました。また、ツアー客が村内で食事をできるように簡易食堂のトライアルを始めました。マングローブの森や海で採れる食材を、エコツアー客に提供することで、マングローブの恩恵を実感してもらうことになり、また、女性たちにもマングローブの森からの利益が配分されることになりました。また、子供たちにマングローブを身近に感じてもらうため、小学校のカリキュラムへのマングローブ学習の導入を検討しています。



植林したマングローブの苗木



高校生のマングローブ学習



海藻養殖の研修



スナック開発



小学校における環境教育指導研修

2015年度活動成果

- 苗木植林:プカロンガン市にて25000本を植林
 - プカロンガン市バンドウンガン村のマングローブグループの活動補助
 - プカロンガン市マングローブ体験学習(高校生30人の参加)の実施
 - スマラン市タパック村の女性グループの活動支援(エコツアー用簡易食堂設置支援、スナック等の開発)
 - スマラン市環境教育(小学校教員への指導要綱作成、指導方法ワークショップ開催等)
-

インドネシアの気候変動影響、特に沿岸部の高潮や海面上昇影響への適応対策として実施してきたマングローブ保全活動では、主な活動地であるスマラン市において、住民主体の保全活動と、行政や専門家、企業等が住民をサポートする体制が構築されました。モデル地域であるタパック村は、住民主体の自立したマングローブ保全が実現し、エコツーリズムや苗販売により活動資金の確保や住民による次世代の人材育成も評価されています。

スマランでは一定の成果を出した「適応対策」ですが、より深刻な海面上昇影響を受けるプカロンガン市は、「適応対策」だけでは間に合わないほどの被害に直面しています。今後、このような甚大な影響を受ける地域において、住民自身による適応努力を促進しつつ、パイロットプロジェクトを通じて住民のニーズに即した支援の在り方を提案していきます。2015年度は、プカロンガン市沿岸部の住民被害の実態を調査しました。

プカロンガン市の気候変動影響の実態調査進捗報告(一部抜粋)

- 期間／2015年9月～2016年3月(※2016年4月以降も調査は継続)
- 場所／インドネシア中部ジャワ州プカロンガン市、プカロンガン県
Bandengan, Kandang Panjang, Panjang Baru, Pabean
- 目的／① 損失と被害の脆弱地のマッピング
② 住民レベルの損失と被害の実情の把握
③ 行政による支援と住民ニーズの把握
- 対象とする影響／洪水、高潮、高波、浸食、異常気象、干ばつ、水不足、地滑り
- 手法／文献調査、聞き取り、踏査、グループディスカッション
- 対象／関係行政機関、専門家、住民グループ、住民
- 調査協力／BINTARI Foundation、プカロンガン市、プカロンガン大学

■ 調査結果

- プカロンガン市の広さ／45.25Km²
- 人口／約30万人
- 海拔／最大1m
- 海岸線／100m内陸側に移動
- 浸水範囲／市の1/4が浸水エリア



冠水した村

プカロンガン北部の7つの行政地区が高潮による影響。2013年から4村が常に浸水状態(Kandang Panjang村、Pabean村、Pasirsari村、Bandengan村)。上記の内、Bandengan村に最も深刻な被害。(83%の土地が浸水地)

■ 国・地方行政からの支援

- 堤防の設置(6.25km)。
- マングローブの苗木配布。
- 排水ポンプの設置(2ヶ所)。
- 代替整形手段として海藻養殖の支援。
- コミュニティレベルではコミュニティ自身で対処している状況。
- 家屋の改築支援の財源はいくつかある。(最大Rp.5,000,000(約5万円)/1戸)。
- 行政として農家や漁業関係者の経済損失は把握できていない。



行政の浸水被害支援対象から外された住民

■ バンドウンガン村住民への影響

- 107ha(プカロンガン全体では267ha)の田んぼが2008年から水没。(100-150cmの浸水)
- 10000㎡のジャスミン畑が喪失(1980年代から縮小)。浸水状況により収穫量にも影響。
- 2013年ごろから築堤式養殖から縄仕切養殖に転換。現在は養殖従事者の10%だけが築堤式を利用。縄仕切り養殖への転換により、収入は半分。
- バティック業者の10%が廃業。
- 住宅地は平均30-40cmの浸水。301戸が被害。
- 塩水の流入によりすべての井戸の汚染。
 - 飲料水はRp.500~1000/月支払う。
- トイレ・風呂が使えない。
 - 一部公衆トイレが設置される。(世帯当たりRp.5000/月の負担増)
 - 汚染された川でトイレや水浴びをする住民も少なくない。
- 皮膚病や下痢などの感染症の蔓延。



ジャスミン



3度の改築をしてもまた浸水する家



汚れた水により皮膚炎患者が多い



道と床を高くしたので屋根が低くなっている